

V 肥料価格高騰対策事業の取組メニュー

取組メニュー	肥料コスト低減に向けた技術対策	対応する研究成果
ア 土壌診断による施肥設計	1	1
イ 生育診断による施肥設計		2
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		1・2
エ 堆肥の利用	3	5
オ 汚泥肥料の利用（下水汚泥等）		5
カ 食品残渣など国内資源の利用（エとオ以外）		5
キ 有機質肥料（指定混合肥料等を含む）の利用		5
ク 緑肥作物の利用		6
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用	—	—
コ 低成分肥料(単肥配合を含む) の利用	2	4
サ 可変施肥機の利用（ドローンの活用等を含む）		3
シ 局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、 灌注施肥等）の利用		3
ス 育苗箱（ポット苗）施肥の利用		3・4
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの 施肥量・肥料銘柄の見直し （ア～スに係るものを除く。）		4
ソ 地域特認技術の利用	—	—

注1) 肥料コスト低減に向けた技術対策：本マニュアルの「I-2 技術対策（1）～（3）」

注2) 対応する研究成果：本マニュアルの「IV-2 研究成果一覧（1）～（6）」